

京林大だより

No.16



絵:卒業生 熊走君



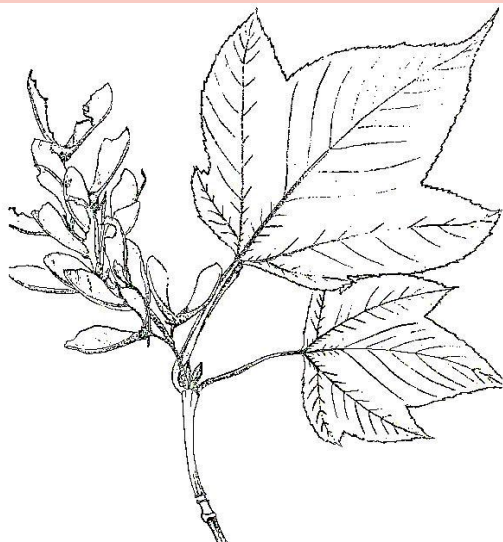
林大講義 Pickup 『樹木実習』

林大の只木校長は、「自然を尊敬できる人を育てたい」といつもいられています。汲めども尽きぬ自然を学ぶ一つの手だてとして、林大では開校時より樹木実習の授業が設定され、府立植物園の松谷茂名誉園長を講師に迎え、京都府内の様々な場所で多様な樹木の識別を学んできました。

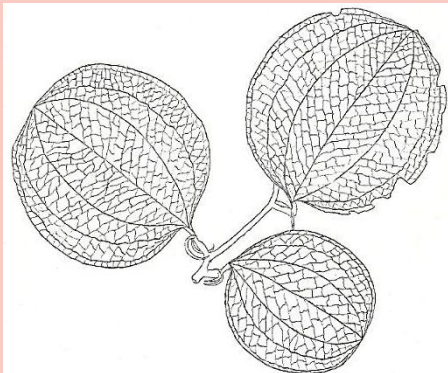
今年度、新しく綾部市にある君尾山（標高581.8m）で実習を行いました。ブナ、イヌブナ、トチノキ、ホオノキ、ミズメ、アカシデ、イヌシデ、クマシデなどの豊かな落葉樹林やアカガシ、ウラジログアシなどの常緑樹も見られ、日本の代表的な樹木を学べる非常に素晴らしいところでした。

この実習では、採集した標本を使って、実習ごとに確認テストを行っており、標本のスケッチも行っています。

毎年、非常に丁寧に精緻なスケッチを描く学生がいます。



学生が描いた精緻なスケッチ。
何の植物だかわかりますか？
（正解は右下にあります。）



【正解】

左：ウリハダカエデ

右：サルトリイバラ

★かがやく★1期生★

今回は京都府の北と南、兵庫県へ就職した卒業生3人を紹介します。

熊走 彰記

京都市森林組合に森林整備士として4月から配属され、主に利用間伐の伐採班で働いています。

在学当時は、これからの仕事には何が必要なのだろうと常に考えて勉強していましたが、今振り返ってみると、必要なことはその時になってしかわからないことだと実感しました。

つまり「備えあれば憂いなし」在学中に様々な知識を吸収し、経験をたくさん積むことが必要です。そうであれば必ず将来に役立つと思います。

(写真右:熊走くん)



(写真上:岩井くん)



岩井 清健

私は現在、伊東木材株式会社に就職し、現場職員として従事しています。主な業務は、スギ・ヒノキを中心とした間伐や搬出作業、測量です。他には特殊伐採の補助もしています。

私が今、目標としていることは、一本一本の木から最良の尺取りをし、傷や汚れを極力つけずに土場へ出すことです。これは夏場や記念市用の良材を出す時に、失敗した事が大きく関係しています。丁寧な仕事ができるようこれからも精進していきます。

片山 健太

4月から地元の「しろう森林組合」で働きだし、仕事は主に材のフォワーダ運搬・伐倒木の集材を行っています。初めは、細い林道での重機操作や搬出間伐全体の流れが分からず戸惑いを感じていましたが、徐々に慣れてきました。仕事を始めて一番感じることは、林大での講義や実習はとても貴重なことを学んでいたのだと実感しています。特にキャップストーン研修で得た、現場の技術や知識は作業を行う上で役に立っています。

これからも日々努力して、スキルアップしていきたいと思っています。



校長室より

『土石流一八岐大蛇』

校長 只木良也

今号、もう一度土石流関連の話。

今年8月の広島土石流災害。最大の被害地の八木は、古い時代には蛇落地悪谷(じゃらくちあしたに)という地名だったといえます。土石流の荒れ狂う様を、大蛇(竜)が暴れる様と古代の人々は見立てたのでしょう。その後、蛇落地は上楽寺に、悪谷は芦谷(あしたに→よしたに)と優しい表現に読み代わりました。なお、本年7月に土石流災害のあった信州木曾谷では、古くから土石流を「蛇抜け」と称してきました。やはり「蛇」なのでした。

大蛇と言えば、神話の中の八岐大蛇(やまたのおろち)。それは、頭・尾は八つに分かれ、体長は谷八つを渡る凄い大蛇で、繰り返し人里を襲う。そしてその出現の場は出雲の国、広島と背中合わせの中国山地。古くから製鉄が盛んで、その燃料のために森林の伐採は盛んで、禿げ山化が進んだところ、当然土石流災害も多かったはずで。



この大蛇を酒に酔わせて退治したのが須佐之男命(すさのおのみこと)です。この神様は乱暴して天界を追われてきたのですが、土石流被害軽減のために荒れ山の緑化に力を尽くした? 実はこの神様には山地緑化の元祖みたいな話が残っているのです。彼が、髭を抜いて山に散らすとスギになった、胸毛はヒノキに、尻毛はマキに、眉毛はクスノキになつた、そして、スギとクスノキは船材に、ヒノキは宮殿建築に、マキは棺に使えと教えた・・・。

ところで、須佐之男命が八岐大蛇を退治したとき、その尾を斬ったとき中から出てきたのが1振りの剣、天叢雲剣(あめのむらくものつるぎ)、いまは皇室三種の神器の草薙剣(くさなぎのつるぎ)です。燃料採取で山を荒らした製鉄産業の製品のシンボルとしての剣が土石流象徴の大蛇から出てくる、この神話何か故あり、関連ありと思いませんか。